

科目名	薬理学		時期		時間	単位
担当教員	非常勤講師		1年次	前期	30時間	1単位
科目設定理由	現代の高度化した医療ではチーム医療が重視されており、薬物治療でも多職種連携は非常に重要である。患者に接する時間・機会が最も多い看護師には、疾患の理解と共に薬物の作用や副作用、投与時の取り扱い上の注意点などを十分に理解し、医薬品の適正使用と医療事故の防止に努めることが求められている。また、薬剤に関する知識は基礎教育の間だけではなく、医療者である限り生涯にわたり学び続けていく必要がある。そこで、薬物療法における看護師の役割と薬理学の基礎知識ならびに薬物治療に用いられる薬剤についての幅広い知識を修得するために当該科目を設定した。					
学習目標	1 各種疾患の全体像を把握し、その薬物治療の方針を理解しながら適応される薬剤の作用機序ならびに副作用などについて理解する 2 治療に用いられる薬剤について、その適正使用について理解する					
授 業 計 画						
回数	項目	内容				備考
1	薬理学総論	1 薬理学を学ぶにあたって (1)薬物による病気の治療 (2)薬理学とはなにか 2 薬理学の基礎知識 (1)薬が作用するしくみ(薬力学) (2)薬の体内挙動(薬物動態学) (3)薬物相互作用 (4)薬効の個人差に影響する因子 (5)薬物使用の有益性と危険性 (6)薬と法律 (7)薬の名前(一般名、添付文書、薬の辞事典、医薬品集)				講義
2~4	薬理学各論①	1 自律神経系に作用する薬 2 心臓・血管系に作用する薬 3 血液・造血系に作用する薬 4 呼吸器系に作用する薬 5 消化器系に作用する薬 6 腎臓・泌尿器系に作用する薬				講義
5~7	薬理学各論②	1 内分泌・代謝系に作用する薬 2 免疫・アレルギー系に作用する薬 3 骨運動器系に作用する薬 4 精神・神経系に作用する薬 5 皮膚・感覚器系に作用する薬 6 抗炎症薬・鎮痛薬 7 抗がん薬				講義
8~14	疾患の薬物治療	1 精神・神経系疾患の薬物治療と薬剤 2 循環器・呼吸器疾患の薬物治療と薬剤 3 消化器疾患の薬物治療と薬剤 4 腎・泌尿器疾患の薬物治療と薬剤 5 代謝・内分泌・血液・免疫疾患の薬物治療と薬剤 6 生殖器・産婦人科疾患の薬物治療と薬剤 7 眼科・皮膚科・耳鼻科疾患の薬物治療と薬剤				講義
15	試験					
使用テキスト	看護学テキストNiCE 薬理学	荻田喜代一、首藤誠 編集				南江堂
	わかりやすい疾患と処方薬の解説(病態・薬物治療編)	「わかりやすい疾患と処方薬の解説」編集企画委員会				アークメディア
参考図書・資料等	はじめる!つかえる!看護のための薬理学	時政 孝行				南山堂
評価方法	筆記試験					